

令和元年度「パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関するアンケート」調査結果

大阪市教育委員会

(目的)

パソコンや携帯電話・スマートフォン等の利用状況やSNSや電子メール、インターネット上の掲示板、ブログ等による誹謗中傷等の心理的いじめについて、実態を把握する。

(調査規模)

対象児童生徒 小学校6年生、中学校2年生、高等学校2年生

(調査時期)

令和2年1月～2月

調査回答数	小学校6年生	中学校2年生	高等学校2年生
	17,366	14,345	3,878
合計	35,589		

有効回答数 全在籍児童生徒数の89%

1 あなたは自由に使える、インターネットができるパソコン等（タブレット端末やインターネットができるゲーム機を含む）を持っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

全校種において「パソコン」の所有率が減少した。全校種において「どれも持っていない」の割合が昨年度とほぼ同じである。また、「どれも持っていない」と回答した割合として小学校と中学校で同じぐらいである。

2 あなたはインターネットができる自分だけの携帯電話・スマートフォンを持っていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

「携帯電話」の所有率は全校種で減少している。小学校・中学校において今回も「スマートフォン」の所有率が増加し、「どれも持っていない」と答えた児童生徒が減少した。また、高校では2%を切っている。「スマートフォン」の所有率が、小学校において比較的大きな増加傾向が見られた。

3 パソコンや携帯電話・スマートフォン等を使うときの「きまり」について

(1) パソコンや携帯電話・スマートフォン等を使うときの使い方のきまりを家の人と決めていますか。決めているものをすべて選んでください。

全校種において、どの端末についても「きまり」を決めている割合が増加している。学年が上がるごとに、「きまり」を決めている割合が低くなっている。全校種において「どれも決めていない」の割合が減少している。高等学校において「どれも決めていない」の割合の高さがめだつ。

(2) それはどんなきまりですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全校種において「時間」のきまりについて増加率が高い。一方、全校種において「料金」と「使う場所」のきまりが減少している。全校種において「人の悪口の書き込みはしない」・「個人情報の書き込みをしない等」の割合は増加した。

4 あなたのパソコンや携帯電話・スマートフォン等にフィルタリング機能（迷惑メールや有害サイトを制限する機能）を設定していますか。あてはまるものをすべて選んでください。

小学校・中学校において、フィルタリング機能を設定している割合は、昨年度に比べてほぼ横ばいから微増といったところであるが、全校種ともスマートフォンへの設定は増えた。高校における「スマートフォン」に設定している割合が全校種で最も高い。

5 1日のうち、パソコンや携帯電話・スマートフォン等でインターネットを使う時間はどのくらいですか。（最も近いものを選ぶ）

全校種において「3時間以上」の割合が増加し、「ほとんど使わない」の割合が減少した。「約2時間」と「3時間以上」の合計が、小学校で65%、中学校で76%、高校で87%を超えた。

6 あなたがパソコンや携帯電話・スマートフォン等を使って、していることはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全校種において「動画を見る」の割合が8割を、「ゲームをする」の割合が7割を超えている。SNSへの関与の割合が学年が上がるごとに高くなっており、高校の「SNSでのメッセージのやりとり」や「SNSの閲覧」の割合は8割を超えている。「SNSへの投稿」は小学校・中学校において増加している。小学校では「ゲームをする」が8割を超えている。

7 あなたがパソコンや携帯電話・スマートフォン等で利用しているSNSはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。

全校種において「LINE」の割合がめだって多く、小学校で7割、中学校・高校では9割を超えている。全校種において、「Instagram」・「TikTok」の割合が増加している。高校では「Twitter」、「Instagram」等、複数のSNSを利用していることが見られる。SNSのなかで「TikTok」は高校よりも小学校・中学校において利用の割合が高いことがめだった。

8 パソコンや携帯電話・スマートフォン等で受けた被害について

- (1) パソコンや携帯電話・スマートフォン等を使って、SNSや電子メール、掲示板、ブログ、ブログ等に悪口を書かれたり、動画サイトやSNSに自分の動画を無断で公開されたりする等、いやがらせをされたことがありますか。[1つ選択]

昨年度と比べて被害が増加した。今後も引き続き、情報モラルについて保護者と連携した指導の充実が必要である。

- (2) それはどんなことですか、あてはまるものをすべて選んでください。

全校種においてSNSによる被害が多いことがわかる。今後も全校種において、情報モラルを学ぶ必要がある。特にSNSについて、有効活用するための取組を行うなど各校で積極的に関わることも必要と思われる。

- (3) そのいやがらせは、誰がしたのかわかりましたか。

小学校・中学校において「わかった」の割合が減少した。いじめの未然防止及び学校内外での児童生徒の様子や人間関係の変化を注視する等いじめの早期発見に努める必要がある。

- (4) SNSや電子メール、掲示板等で、悪口の書き込みや自分へのいやがらせ等を見つけたとき、誰かに相談しましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

全校種において「友だち」・「家族」の割合が多い。中学校・高校において「友だち」・「家族」の割合が大きく増加し、「誰にも相談しなかった」の割合が大きく減少した。学校での相談しやすい雰囲気づくりや学校内外の相談窓口等を周知する必要がある。

9 パソコンや携帯電話・スマートフォン等を使ったいやがらせについて

- (1) パソコンや携帯電話・スマートフォン等を使って、SNSや電子メール、掲示板、ブログ、ブログ等に悪口を書き込んだり、動画サイトやSNSに無断で動画を公開したりする等、いやがらせをしたことがありますか。

「ある」の割合が、小学校・中学校において微増した。

- (2) その内容について、あてはまるものをすべて選んでください。

いやがらせの内容として全校種とも「SNSで悪口を流した」が最も多い。「電子メールで悪口を流した」・「SNSに画像や動画を無断で公開した」が中学校でめだって多い。

- (3) 悪口を書き込んだり、動画を公開したりする等のいやがらせをしたのはなぜですか。あてはまる理由をすべて選んでください。

全校種において「まねをした」「誰かわからないと思った」の割合が高くなっている。引き続き、情報モラル教育と携帯電話・スマートフォン等の使用について、保護者と連携した指導のさらなる充実が必要である。